

(別添2-4)

講 師 履 歴 書

ふりがな 氏 名			生年月日	年 月 日	
自宅住所					
現在の勤務先と業務内容	勤務先名				
	所 在 地				
	業務内容	(年 月 ～ 現在)			
担当科目	1 (1)	福祉用具の役割	3 (4)	介護技術	
	1 (2)	福祉用具専門相談員の役割と職業倫理	3 (5)	住環境と住宅改修	
	2 (1)	介護保険制度等の考え方と仕組み	4 (1)	福祉用具の特徴	
	2 (2)	介護サービスにおける視点	4 (2)	福祉用具の活用	
	3 (1)	からだところの理解	4 (3)	福祉用具の安全利用とリスクマネジメント	
	3 (2)	リハビリテーション	5 (1)	福祉用具の供給とサービスの仕組み	
	3 (3)	高齢者の日常生活の理解	5 (2)	福祉用具による支援プロセスの理解・福祉用具貸与計画等の作成と活用	
修了評価者	「確認テスト(修了評価)」及び補習が必要な受講者に対し、到達目標に達するように補習等を行うことができる。				
担当科目に関連する資格・免許	(取得月： 年 月)		(取得月： 年 月)		
	(取得月： 年 月)		(取得月： 年 月)		
職 歴	勤 務 先 (施設・事業所等の種別)	職 種 (業務内容)		就 業 期 間	年・月
				年 月 ～ 年 月	・
				年 月 ～ 年 月	・
				年 月 ～ 年 月	・
				年 月 ～ 年 月	・
				年 月 ～ 年 月	・
				年 月 ～ 年 月	・

上記の記載内容については、相違ありません。

年 月 日 (講師署名欄)

※自筆署名のこと

上記講師について、講師要件に該当する資格、職歴等を確認し、講師として適任と判断いたしました。
加えて、下記についても該当する場合は、番号に○を付けてください。

- 1 修了評価者（「確認テスト(修了評価)」及び補習等を担当する者）として、適任と判断いたしました。
- 2 次の担当科目については、裏面「業績審査理由」のとおり、業績を審査し適任と判断いたしました。
(科目名：)

法人・団体名

代 表 者 名

◆ 業績審査理由

科目番号・科目名	
業 績 (保有する資格・履歴等に関連する業績及び業務年数等を詳細に記載すること。)	
適任と認める理由 (業績から当該担当科目を教授することが適当と認められる理由を詳細に記載すること。)	

- ※1 「担当科目に関連する資格・免許」、「職歴」欄が不足する場合は、適宜用紙を追加すること。
- ※2 資格証明書及び実務経験証明書等の写しを添付すること。
- ※3 担当する科目について、「科目番号」の前に○を付けること。
- ※4 修了評価者（「確認テスト(修了評価)」及び補習等を担当する者）となる場合は、「修了評価者」に○をつけること。
- ※5 「担当科目に関連する資格・免許」欄について、当該講師要件に関連しない資格・免許の記載は不要です。
- ※6 「職歴」欄については、当該講師要件に関連しない職歴の記載は不要です。
- 「勤務先（施設・事業所等の種別）」は、勤務先の法人名、施設・事業所名称等を記載し、()内には施設・事業所の種別（特別養護老人ホーム、訪問介護・通所介護事業所等）を記載すること。
- 「職種（業務内容）」は、当該勤務先における職種及び具体的な業務内容（高齢者の相談援助業務、看護業務、等）を記載すること。なお、教員の場合は、担当教科名及び教科の内容を詳細に記載すること。（別紙に記載可）
- なお、講師要件表（別紙3）の講師の要件のうち、「前記以外の者でその業績を審査することによって当該科目の担当に適任であると特に認められる者」については、事業者が「業績審査理由」欄に業績及び適任と認める理由を記載すること。

記載例

(別添2-4)

講師履歴書

ふりがな	〇〇〇 〇〇〇〇		生年月日	昭和〇〇年 〇月〇〇日	
氏 名	徳島 B子				
自宅住所	〇〇市〇〇〇〇〇 2-1-22				
現在の勤務先と業務内容	勤務先名	学校法人〇〇短期大学 福祉学科			
	所在地	〇〇市〇〇区〇〇〇 1-1-1			
	業務内容	介護福祉士養成校教員（生活支援技術・介護実習等を担当）（令和3年10月～現在）			
科目番号 担当科目	〇 1(1)	福祉用具の役割	〇 3(4)	介護技術	
	〇 1(2)	福祉用具専門相談員の役割と職業倫理	3(5)	住環境と住宅改修	
	〇 2(1)	介護保険制度等の考え方と仕組み	〇 4(1)	福祉用具の特徴	
	〇 2(2)	介護サービスにおける視点	〇 4(2)	福祉用具の活用	
	3(1)	からだところの理解	〇 4(3)	福祉用具の安全利用とリスクマネジメント	
	3(2)	リハビリテーション	〇 5(1)	福祉用具の供給とサービスの仕組み	
	3(3)	高齢者の日常生活の理解	〇 5(2)	福祉用具による支援プロセスの理解・福祉用具貸与計画等の作成と活用	
修了評価者	〇	「確認テスト(修了評価)」及び補習が必要な受講者に対し、到達目標に達するように補習等を行うことができる。			
担当科目に関連する資格・免許	介護福祉士	(取得月：H22年10月)	福祉用具専門相談員	(取得月：H27年9月)	
		(取得月： 年 月)		(取得月： 年 月)	
職歴	勤務先 (施設・事業所等の種別)	職種(業務内容)		就業期間	年・月
	(社福) 〇〇会 〇〇〇苑 (特別養護老人ホーム)	介護職(入所者の介護業務)		H17年4月～H27年7月	10・4
	(株) 〇〇〇 〇〇〇ケアセンター (福祉用具貸与・販売事業所)	福祉用具専門相談員		H27年10月～R2年12月	5・3
	(株) △△ △△△デイセンター (通所介護事業所)	介護員(介護業務)		R3年1月～R3年9月	・9
	学校法人〇〇短期大学 福祉学科 (介護福祉士養成校)	教員(生活支援技術・介護実習等を担当)		R3年10月～ 年 月	4・6

資格取得後に、5年以上の実務経験があるかどうか(医師を除く)を確認すること。

講師の選任にあたっては、科目ごとの内容に沿った講義・演習を適切に行うことができる者と判断すること。

上記の記載内容については、相違ありません。

令和8年 4月 1日 (講師署名欄) 徳島 B子

上記講師について、講師要件に該当する資格、職歴等を確認し、講師として適任と判断いたしました。
加えて、下記についても該当する場合は、番号に○を付けてください。

- 1 修了評価者（「確認テスト(修了評価)」及び補習等を担当する者）として、適任と判断いたしました。
2 次の担当科目については、裏面「業績審査理由」のとおり、業績を審査し適任と判断いたしました。

目名：

)

業績を審査して講師を担当させる場合は、科目名を記載し、裏面に業績・理由を記載すること。

法人・団体名

代 表 者 名

◆ 業績審査理由

科目番号・科目名	3() ○○○○○○○○
業 績 (保有する資格・履歴等に関連する業績及び業務年数等を詳細に記載すること。)	○○○○士として、○○○○○病院において、常勤で○年間勤務し、……… …… (業務内容を詳細に) ……の業務を行っていた。 ○○として、○○○○大学において、○年○月から、常勤講師として勤務し、 …… (担当科目の詳細内容) ……についての講義を担当している。 業績を審査する場合にあっても、5年以上の実務経験は必要。ただし、担当科目において、資格要件に該当する複数の資格等を有し、それぞれの資格に基づく業績がある場合は、それぞれの実務経験を合算することは可能とする。
適任と認める理由 (業績から当該担当科目を教授することが適当と認められる理由を詳細に記載すること。)	上記の業績により、○○○○○○○○○○○○○○○○○○の内容に精通しており、当該講師が○○○○○科目の……… (内容) ……についての講義 (演習) を担当することについては適任と認める。 科目の内容が、当該講師の業績や実務経験から、当該科目を担当させることについて、適当と判断した理由を詳細に記載すること。

- ※1 「担当科目に関連する資格・免許」、「職歴」欄が不足する場合は、適宜用紙を追加すること。
- ※2 資格証明書及び実務経験証明書等の写しを添付すること。
- ※3 担当する科目について、「科目番号」の前に○を付けること。
- ※4 修了評価者(「確認テスト(修了評価)」及び補習等を担当する者)となる場合は、「修了評価者」に○をつけること。
- ※5 「担当科目に関連する資格・免許」欄について、当該講師要件に関連しない資格・免許の記載は不要です。
- ※6 「職歴」欄については、当該講師要件に関連しない職歴の記載は不要です。
- 「勤務先(施設・事業所等の種別)」は、勤務先の法人名、施設・事業所名称等を記載し、()内には施設・事業所の種別(特別養護老人ホーム、訪問介護・通所介護事業所等)を記載すること。
- 「職種(業務内容)」は、当該勤務先においての職種及び具体的な業務内容(高齢者の相談援助業務、看護業務、等)を記載すること。なお、教員の場合は、担当教科名及び教科の内容を詳細に記載すること。(別紙に記載可)
- なお、講師要件表(別紙3)の講師の要件のうち、「前記以外の者でその業績を審査することによって当該科目の担当に適任であると特に認められる者」については、事業者が「業績審査理由」欄に業績及び適任と認める理由を記載すること。